平成２５年度研究成果報告書《平成 25 年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	２４	都道府県・指定都市名	三重・鈴鹿
学校名（生徒数）	鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校（５２９人）		

（本研究に関わる問い合わせ先）
所在地：〒５１０－０２５４　三重県鈴鹿市寺家四丁目１１番１号
電話番号：０５９－３８６－５８５２
メールアドレス：tsuzumigaura-j@city.suzuka.lg.jp
学校のホームページの URL：http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/tsudu-j/

【研究成果のポイント】

○研究のキーワード：グループ活動，言語活動，技術を評価し活用する能力，思考力・判断力・表現力等の育成，ワークシート

○研究成果のポイント

「技術を評価し活用する能力」を育成するため，＜言語活動の充実＞に関してグループ活動の指導方法及びワークシートの工夫を行った。また＜技術的な課題を発見できる力の育成＞に関して，生徒の実態に応じた課題内容，社会の中の課題内容について検討も行った。

【研究の目的，研究内容】

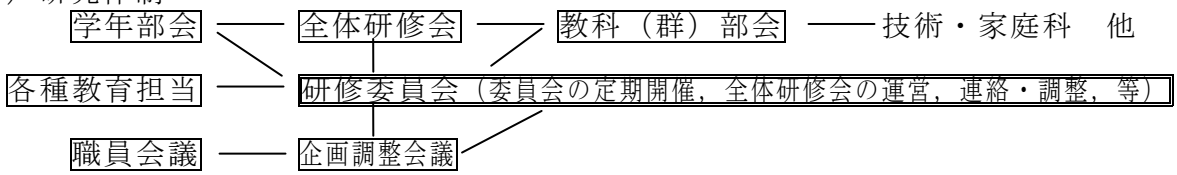
（１）研究主題

技術・家庭科における思考力・判断力・表現力の育成をめざす指導方法の工夫・改善 ～　「共に学び合う授業の創造」を通して　～

（２）研究主題設定の理由

これまで技術・家庭科では，生徒の生活経験の不足等の現状を踏まえ，基礎的・基本的な知識・技能の習得を中心に研究を進めてきた。しかし，現在の生徒は知識・技能は習得できていても,それを実際に活用する力は不足していると思われる。そこで，習得した知識・技能を活用するための思考力・判断力・表現力等の育成を重視していく必要があると考えた。一方，従前より技術・家庭科で行ってきているグループ学習は,意見交換等をとおして思考を深めたり広めたりするために有効と考える。そこで，技術分野においては，今回の改訂でその重要性が強調されている「技術を評価し活用する能力」に着目し，この能力を育成するためにグループ活動を生かした「共に学び合う授業の創造」を目指して，特に「技術的な課題を発見できる力の育成」と「言語活動の充実」にポイントを置き，研究を進めたいと考え研究主題を設定した。

（３）研究体制



（４）１年間の主な取組の経過

平成25年度	①生徒の実態把握 ＜技術的な課題を発見できる力の育成＞:生徒の実態や実生活で技術の活用の様子等を把握し，課題を検討した。 ＜言語活動の充実＞:話し合いの中での発言の様子等を把握し，課題を検討した。 ②授業検討会 ＜技術的な課題を発見できる力の育成＞:生徒の実態を踏まえた学習課題を検討した。 ＜言語活動の充実＞:グループ活動を中心に，学年に応じた活動内容，指導方法，ワークシートの形式を検討した。 ③授業実践

	＜技術的な課題を発見できる力の育成＞:課題解決に対する生徒の意欲等から，設定した課題について検証・分析した。 ＜言語活動の充実＞:グループ活動の様子から，指導方法や，ワークシートの形式等について検証・分析した。

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

①生徒の実態把握：生徒の技術に関する興味関心の実態を調査した。またグループを使った話し合いの場面を積極的に設定するとともに，自分の考えなどを記入できるワークシートを用意し，生徒の意見交換の様子を確認した。

②授業検討会：課題は，学年によって難易度を変えることを目的に，課題発見の場面や技術を評価し活用する立場・視点を検討した。具体的には，第１学年では身近な市販品と実習の製作物を比較，上級学年では身近にはない新しい資材や内容を取り上げ，授業や実習の中で，使われている技術や目的を考えることができるようにした。

言語活動に関しては，第１学年では,「材料と加工に関する技術」について，授業実習の様子や考えを記録し思考の過程が残るワークシートを使い，グループで考えを共有する場面や，共有した考えを基に，自分の考えを再構築できる場面を設定した授業を行った。

③授業実践：授業中の生徒の観察や，ワークシートの記述内容等から，設定した課題やワークシートの形式等の有効性について検証・分析をした。

第３学年の「情報に関する技術」においてアニメーションの設計・制作終了後の技術を評価し活用する学習の場面で，１学期の学習内容や設計・制作の経験を基に，情報の技術と自分たちの生活との関わりを現在から将来にむけて考えを広げることを意図した授業を行った。

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果

○技術に関する知識不足や，評価・活用していこうとする意欲の低さを話し合いで補うためにグループ活動の有効性を確認することができた。ただし，生徒同士が考えを共有し，個々の生徒が考えを再考できる意図的な場面設定をすることが不可欠であり，そのために，考える場面設定と考えを整理しやすいワークシートが必要であることが分かった。

○発達段階に応じて３年間を見通した学習課題を設定することで，生徒が積極的に技術を評価することができる場面を多く設定できた。これが技術的な課題を発見できる力の育成に繋がってきていると思われる。また，グループ活動を基本としながら「発見」「共有」「再構築」の場面を設定するとともに，思考の過程を記録できるワークシートを工夫することで，生徒は思考を深めることができていた。

○すべての学年で，生徒は課題の解決に積極的に取り組む姿が見られた。また，ワークシートには，消費者や環境面といった限られた立場・視点だけではなく，多様な考えが記述されるようになってきている。

（２）研究成果の意義等

○生徒の実態を踏まえて，３年間を見通した適切な難易度のある学習課題を設定することで，生徒は積極的に課題解決に取り組むようになってきた。

○グループ活動を基本としながら「発見」「共有」「再構築」の場面を設定するとともに，思考の過程を記録できるワークシートを工夫することで，生徒は習得した知識・技能を活用するための思考力・判断力・表現力を身につけてきている。

（３）指定期間終了後の取組

今後，三重県内，鈴鹿市内の中学校に成果や課題を公開，連携しながら研究を継続し，言語活動充実の場面設定，教材選定やワークシートの工夫をさらに行う必要がある。また，目標とする「技術の適切な評価・活用」できる能力と態度についての，効率的・客観的な評価についても検討が必要と考える。

平成２５年度研究成果報告《平成２５年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	２４	都道府県・指定都市名	三重・鈴鹿
学校名（生徒数）	鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校（５２９人）		

（本研究に関わる問い合わせ先）
所在地：〒５１０－０２５４　三重県鈴鹿市寺家四丁目１１番１号
電話番号：０５９－３８６－５８５２
メールアドレス：tsuzumigaura-j@city.suzuka.lg.jp
学校のホームページの URL：http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/tsudu-j/

【研究成果のポイント】

○研究のキーワード：生活を工夫し創造する能力，幼児と触れ合う活動，言語活動
生活の課題と実践，グループ活動，

○研究成果のポイント：

「A家族・家庭と子どもの成長」において，２回の幼児と触れ合う活動は，各自が適切な課題を設定することができ，生活の課題と実践に意欲的に取り組むことができた。さらに，グループ活動における言語活動の充実や生徒の思考の流れが分かるワークシートの工夫は，生活を工夫し創造する能力を育むことにつながった。

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

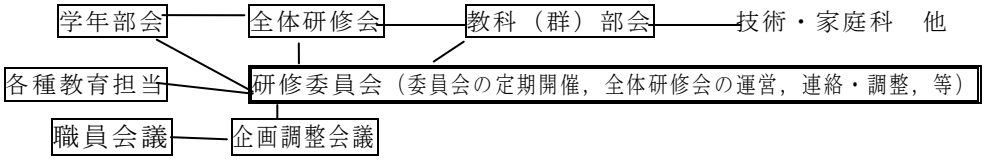
技術・家庭科における思考力・判断力・表現力の育成を目指す指導方法の工夫・改善 ～　「共に学び合う授業の創造」を通して　～

（２）研究主題設定の理由

子供たちは，内容「A家族・家庭と子どもの成長」において，幼児の発達と生活の特徴等の学習に意欲的に取り組んでいるが，本校において，毎年実施している「幼児と触れ合う活動」では，幼児との関わりを工夫することが苦手な生徒も多い。

そこで，幼児の生活と家族についての知識や技術を活用して，幼児との関わり方を工夫する能力を育むために，「幼児と触れ合う活動」を取り入れた指導計画を工夫し，共に学び合う授業の指導方法の工夫・改善について研究を進めることにした。

（３）研究体制



（４）１年間の主な取組の経過

平成25年度	内容「A家族・家庭と子どもの成長」において，次の内容について調査研究をした。 １．２回の「幼児と触れ合う活動」を通して，幼児への関心を高め，関わり方を工夫できるようにするための指導計画を工夫した。 ２．「A（３）エ家族又は幼児の生活の課題と実践」において，「生活を工夫し創造する能力」を育成するための問題解決的な学習の指導方法を工夫した。 ３．「幼児の遊び道具の製作」や「幼児と触れ合う活動」において，幼児との関わり方について考え，工夫できるようにするためにグループ活動における言語活動の充実を図った。 ４．幼児の心身の発達を生かした遊び道具の製作等において生活を工夫し創造する

	能力の実現状況を把握するためのワークシートを工夫した。

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

○２回の「幼児と触れ合う活動」を通して，幼児への関心を高め，関わり方を工夫できるようにするための指導計画の工夫として，第２学年１学期に「Ａ，幼児の生活と家族」のア,「幼児の発達と生活の特徴」を学習した後，１回目の保育所訪問で幼児と直接触れ合う体験を行った。さらに，幼児への関心を深め，自分なりの課題をもって，遊び道具の製作計画を立てて，夏期休業中に家庭で製作し，実践発表会を通して評価し改善した。そして，製作したおもちゃを活用して，２回目の「幼児と触れ合う活動」が充実するよう構成した。

○「Ａ（３）エ家族又は幼児の生活の課題と実践」では，幼児の心身の発達や興味・関心を考慮した遊び道具の製作について，各自が課題をもって，計画，実践，評価，改善に取り組めるよう，ワークシート，振り返りカードを工夫した。

○「幼児の遊び道具の製作」や「幼児と触れ合う活動」において，幼児との関わり方について考え，工夫できるようにするために，課題設定と発表・改善の場面で，４人グループで意見交流するなどの言語活動を充実した。

○幼児の心身の発達を生かした遊び道具の製作等において，生活を工夫し創造する能力の実現状況を把握するため，生徒の思考の過程がわかるようなワークシートやレポートを工夫し，まとめ発表する場面で活用できるようにした。

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果

○２回の「幼児と触れ合う活動」を取り入れた指導計画の工夫により，幼児を知り，幼児との接し方を学ぶことができるだけでなく， 自分の成長やたくさんの家族の願いや思いがあることなども気づかせることができた。

○「生活の課題と実践」において，一緒に遊んだ幼児のためにおもちゃの製作に取り組むことにより，対象年齢にあった手作りおもちゃを自分なりに工夫し，改善することができた。

○課題設定と発表・改善の場面で，同じ課題をもつグループで，課題解決の方法をまとめ発表したり，相互評価を取り入れたりすることにより，幼児との関わり方について考えを深めることができた。

（２）研究成果の意義等

○２回の「幼児と触れ合う活動」と「生活の課題と実践」を組み合わせた題材構成の中で，生徒の思考の流れが分かるワークシートの工夫や，グループ活動における言語活動の充実を通して各自が適切な課題を設定し，課題解決を図ることができ，生活を工夫し創造する能力を育むことにつながった。

○幼い頃の振り返りや遊び道具の計画及び製作において，学習内容を家庭に知らせることにより，アドバイスをもらうなど家庭の協力を得ることができた。

（３）指定期間終了後の取組

○本研究の成果については，授業の公開および授業研究会を鈴鹿技術・家庭科研究会の会員に公開し，研究協議を行うことによって，研究の深化と成果の普及を図る。また，生徒がまとめたレポートなどを展示することで，各家庭や他校の教員に広めていきたい。